

あなたのフランスは
どんなところ？

2022年度
フランス観光キャンペーン

プレス資料
2022.7.20

01 挨拶

フレデリック・マゼンク フランス観光開発機構 在日代表

フランス観光開発機構の前身となるフランス政府観光局が日本に開設された1971年から今日まで、私どもは50年以上にわたり、様々なプロモーションやキャンペーン、イベントを立ち上げ、観光地としてのフランスの発展と日本社会の変遷に合わせた、あらゆる形式のPRを展開して参りました。そんななか、2022年のキャンペーンの立ち上げにあたっては、新たな局面で物事を考える必要に迫られました。2年以上のコロナ禍により国外旅行を厳しく制限された日本において、どのようにフランスの観光を売り込むべきなのかと。伝えたいメッセージは明確なものでした。

「あなたが以前旅したフランス、これから何度も訪れるかもしれないフランスは今も変わらず、あなたを待っている」。

さて、これをどう伝えるべきか。

答えは、革新的な方法で、アニメーションを創作することでした。一度遠くなってしまったフランスを、日本に一瞬で近づけるには、日本の方に親しまれる言語、つまりアニメーションの力を借りるべきだと考えたのです。

極めて日本的なカルチャーであるアニメをもってフランスを語り、日本特有の表現形態、習慣、センスを通してフランスを届けようと、日本のアニメーション制作スタジオに企画から制作までを依頼しました。

自信をもってお届けするこのユニークな創作が、視聴者の皆様には日本的なアプローチと様式美から親しみをもって受け止められること、またフランスの方々にも大きな共感をもたらすことを願っております。

2022年7月20日
フレデリック・マゼンク
フランス観光開発機構 在日代表

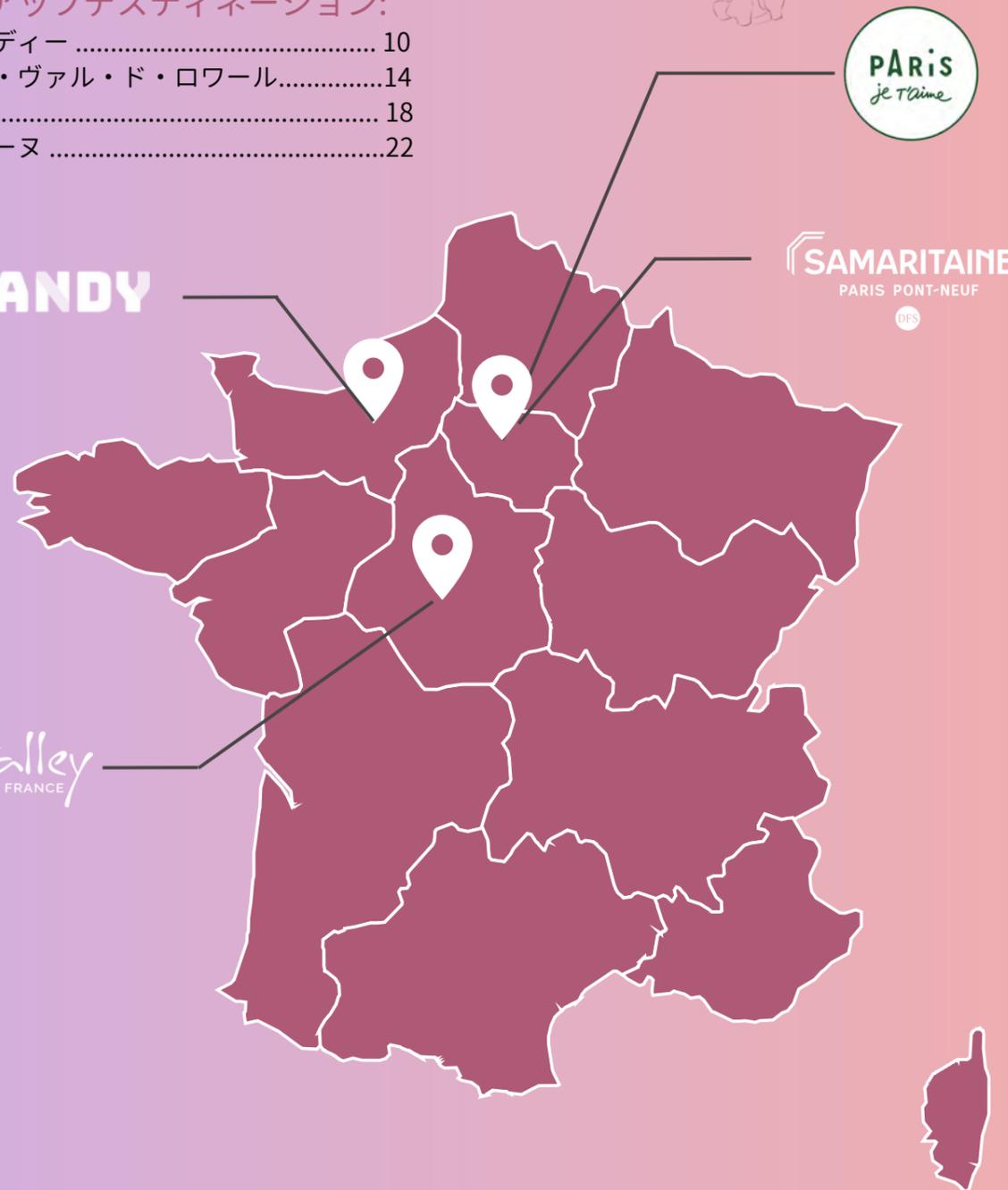


02 目次

キャンペーン概要4
アニメーション制作6

ピックアップデスティネーション:
ノルマンディー 10
サントル・ヴァル・ド・ロワール.....14
パリ 18
サマリテーヌ22

NORMANDY



03 キャンペーン概要

「あなたのフランスはどんなところ？」

長い間、海外旅行に出ることができなかった日本の皆様に、フランス各地の観光地の魅力を発見・再発見していただくため、フランス観光開発機構は2022年観光キャンペーン「あなたのフランスはどんなところ？」を始動します。

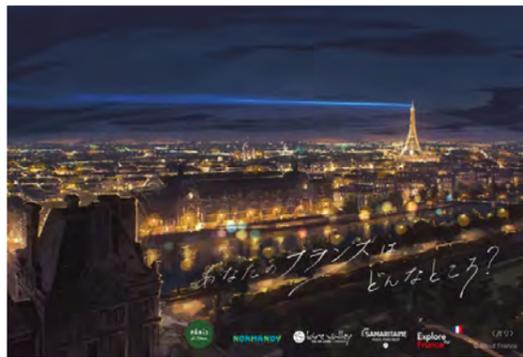
このキャンペーンでは、Studio Daisyによるオリジナルアニメーション動画を用いて、フランス各地の魅力を訴求します。動画内では、日本からフランス旅行をする主な客層を代表する登場人物たち（カップル、若い女性、孫娘から祖母まで3世代の家族）の旅の様子が表現されています。jp.france.fr 内の特設サイトでは、彼らの旅程を辿りながら、動画に登場する観光地の情報を紹介いたします。すべてのキャラクターが登場するフルバージョン動画の他、グループごとの旅の様子にフォーカスした3つのミニバージョン動画は、フランス観光開発機構の各種SNS（YouTube、Facebook、Twitter）にて公開され、広くオンラインプラットフォームでの広告キャンペーンも展開されます。



メインビジュアル①

今回焦点を当てるのは、モン・サン・ミッシェルなど日本人にも人気な観光地を抱えるノルマンディー地方、フランス王家ゆかりの城が並ぶサントル・ヴァル・ド・ロワール地方、伝統とモダンが融合して変革を遂げ続けるパリ、そして昨年パリで再オープンした老舗百貨店サマリテーヌです。

「あなたのフランスはどんなところ？」はまさに旅への招待状



メインビジュアル②

プレスキット

報道・プレス関係者の皆様へ
報道目的のご利用でお使いいただけるキャンペーン関連画像は、下記からダウンロードいただけます。

<https://bit.ly/3omSOjj>

一口に「フランス旅行」と言っても、その体験で感じるものは人それぞれです。誰と行くのか、いつ行くのか、どこに行くのか…様々な要素で構成されるフランス旅行には、二つとして同じものは存在しません。そして旅先でこみ上げる感情も、その人ならではの個性や背景があつてのものはず。旅を通して、知らなかった場所を発見するとともに、そこで感じたことを通して自分自身をも発見することができるのです。

こうした体験は、実際に旅をしてみないと分からないもの。自粛生活から少しずつ解放されてきている今、自分が自分らしくいられる「あなたのフランス」を見つけに、新たな旅を始めませんか？

キャンペーン協賛団体・企業

ノルマンディー地方観光局
サントル・ヴァル・ド・ロワール地方観光局
パリ観光会議局
サマリテーヌ
エールフランス航空
株式会社エイチ・アイ・エス

キャンペーン動画

※2022年7月21日公開



フル動画

<https://youtu.be/LXmG1g5noT0>



家族編

<https://youtu.be/v8pvPR3SaRc>



女子旅編

https://youtu.be/bsHqqiRbw_k



カップル編

<https://youtu.be/HNfLhM46Jl4>

フランスへの往復航空券が当たる プレゼントキャンペーン

キャンペーン特設サイト内にて、複数の質問に回答してアンケートを進めていくと、回答内容に応じておすすめの観光スポットを紹介してくれる診断ゲームを設けています。診断ゲームに参加して、アンケートに回答いただいた方から抽選で賞品をプレゼントするキャンペーンを実施します。

賞品

A賞 エールフランス航空 日本ーパリ往復航空券（エコノミークラス）（1組2名様）

B賞 オリジナルポストカード（全6種 60名様）（ポストカードの種類はお選びいただけません）

スケジュール

7月21日 特設サイトオープン、アニメ動画の公開、プレゼントキャンペーン応募開始

10月31日 プレゼントキャンペーン応募締め切り

11月中旬 プレゼントキャンペーン当選者連絡

キャンペーンサイト

※2022年7月21日オープン

<https://t.ly/your-france>



#あなたのフランスはどんなところ

04 アニメーション制作

アニメーション動画「あなたのフランスはどんなところ？」はstudio daisyによって制作されました。この作品は、「夜桜四重奏」や「夜の国」などはじめ、これまでアニメ業界で数々の作品を手掛けてきた、りょーちもさんが監督。演出は清水理央さんが担当しました。

監督・演出からのコメント

フランスと日本を繋ぐステキな旅に出かけてもらえるそんな映像にしたいと、優しくステキな仲間と一緒に作りました。見てもらえると嬉しいです。
(監督・りょーちもさん)

今回のビジュアルのスタイルですが、日本の人にとって、一般的に思い浮かべる日本のアニメーションとは違った、目を引く新しいビジュアルである一方、フランスはじめ日本の文化外の人からは、日本のアニメーションらしい可愛さを感じられるものとなっています。

音楽は、耳馴染みのあるメロディーからエレクトリックなサウンドまで、色々な音を詰め込み、一度耳にしたら気になってしまい、また曲自体の弾みのあるノリで、旅にいきたくなるよう仕向けられるものとなっています。

そして、そこに添えるナレーションですが、あえて具体的な説明を排することによって、これからフランスに旅行へ行く潜在的な層へと寄り添い、自分ごととして思い描くことを助ける内容となっています。(演出・清水理央さん)



監督・りょーちもさん



演出・清水理央さん

PROFILE

監督・りょーちも

アニメーター・キャラクターデザイナー・
アニメーション監督・CGディレクター

2004年から日本の商業アニメーションで2Dアニメーターとして活躍。

キャラクターデザイン・演出・監督も手掛ける。

2016年頃から3Dのアニメプロダクションでもディレクターを務める。

2020年頃から2D3D両方を使って映像制作を小規模で作る活動をしている。

商業作品と個人作家間での技術を共有出来るように、アドバイス、ナレッジ紹介なども発信している。

【主な参加作品】

- 『BECK』(2004、原画)
- 『ノエイン もうひとりの君へ』(2005~2006、原画)
- 『NARUTO-ナルト-』(2006、原画)
- 『エヴァンゲリオン新劇場版：序』(2007、原画)
- 『鉄腕バーディー DECODE』(2008、キャラクターデザイン・総作画監督)
- 『夜桜四重奏』(2010、監督)
- 『亜人』(2016、演出)
- 『正解するカド』(2017、演出)
- 『GODZILLA 怪獣惑星』(2017、絵コンテ)
- 『映画 HUGっと!プリキュア♡ふたりはプリキュア オールスターズメモリーズ』(2018、絵コンテ)
- 『夜の国』(2021、監督)

映像制作

アニメの映像をできるだけリアルに近づけるため、各シーンの背景は実際に現地で撮影された写真をベースに制作されました。制作スタジオがフランスを訪れてのロケ撮影ができなかったため、現地で撮影して下さる方に、撮影する際のカメラの高さ、画角や構図まで細かく指定して細かく撮影する必要がありました。また、それぞれの場所の地理や空間を把握し、実際に人物がいた場合の見え方を検証することも重要でした。いくつかの場所では、パートナーの協力の下、スタジオと現地をオンラインで繋いでのロケ撮影を実施しました。

シナリオとキャラクターデザインの決定後、映像制作はイメージボードが描かれることから始まります。カット割りやカメラワークなどの演出が入った絵コンテの検証が終わると、細かい調整を行いながらレイアウトが完成し、1カットずつシーンが作画されていきます。場面ごとに異なる色指定に基づいて彩色が行われ、次に陰影や光が加えられてイメージにレリーフがつけられます。



音響制作

楽曲制作はButterfly Effect (バタフライ・エフェクト) のMinji KimさんとNobuhiro Tatenoさんが手がけました。クラシック音楽がお好きな方なら、冒頭の旋律を聴いてすぐにお分かりになるかもしれません。この楽曲はフランスの作曲家クロード・ドビュッシーの「アラベスク第1番」の主旋律をモチーフに展開します。ときにポップに、ときにダイナミックに展開しながら、その時々旅の印象を鮮やかに彩っていく様をお楽しみください。

ナレーションは、テレビなどでナレーションを担当されている川崎芽衣子さんと、アニメやゲームなど多くの作品に出演されている狩野翔さんにご担当いただきました。

制作スタッフ

- ・監督/キャラクターデザイン/作画監督：りょーちも
- ・コンセプトアート/カラースクリプト：高原 さと
- ・絵コンテ/演出/撮影監督/撮影/編集：清水 理央

- ・ナレーション：川崎芽衣子 狩野翔

・LO/原画：
studio daisy
石井 佑季 稲井 マリン
石橋 愛海 河原 泉生 栗原 佑弥
中川 悠也 松本 悠里

高原 さと

- ・動画検査：金子 美紀

・動画：
studio daisy
小林 亜希 金子 美紀
石井 佑季 平田 笑子 稲井 マリン
石橋 愛海 河原 泉生 栗原 佑弥
中川 悠也 松本 悠里
深谷 梨里花 山田 康仁 小林 輝

- ・色彩設計/色指定検査：渡部 夏美

・仕上げ：
studio daisy
渡部 夏美 石井 佑季 平田 笑子
稲井 マリン 石橋 愛海
河原 泉生 栗原 佑弥

デファアー
中原 あゆみ 戸澤 有紀 加藤 友美
佐藤 はじめ 浦 大器 古園 絵実子 高橋 聖美
内海 太輔 丸山 香

GKセールス
劉夢迪 時志結 石冰 楊樹生

・美術監督：鷹野 香織
・背景美術：
ベクター
青井 孝
佐藤 豪志 小幡 和寛 海老澤 卓也
岡本 好司 清水 稚子 梶尾 ことみ
小田 理恵 鷹野 香織

- ・背景制作管理：數野 美樹

・音響効果：出雲 範子
・録音：大野 遥
・録音助手：富所 祐介
・音響制作：Ai Addiction
・音響制作担当：稲葉 順一 松長 龍平

・音楽：Butterfly Effect (バタフライ・エフェクト)
Minji Kim Nobuhiro Tateno
・音楽制作：フジパシフィックミュージック

・プロデューサー/ロゴ作成：吉原 杏菜
・制作進行：佐々倉 健
・制作補佐：森 和也 橋本 皓市

- ・アニメーション制作：studio daisy

studio daisy

フルデジタル環境で、人材育成やワークフローの開発に取り組みながら、ショート作品を中心に制作しています。

2016「ツインエンジン・デジタル部」として人材育成と制作現場のデジタル化に伴う技術開発を主目的に設立

2020 4月 組織再編により EOTA studio daisyに変更

ホームページ
<https://studio-daisy.twinengine.jp/>

【主な作品実績】

- ・スターオーシャン：アナムネシス-Twin Episode-(ゲームOP)
- ・カラーピースアウト (ゲームOP&アニメパート)
- ・ZENDORI (CM)
- ・Eve「闇夜」(MV)
- ・CUE!「まお国-魔王、国を成す-」(ゲーム内アニメ)
- ・薄明の翼4話「夕波」
- ・夜の国 (オリジナル)
第1夜 -22時の案内人-
第2夜 -26時の探し物-
第3夜 -4時の手紙-

登場人物紹介

FAMILY

タエコ(祖母)、マユミ(母)、モエカ(娘)

タエコはオシャレで元気なおばあちゃん。昔から冒険好きで、特にフランスは今までに何度も訪れているお気に入りの国だ。若い頃に娘のマユミを連れて行ったこともある。そろそろ孫娘のモエカにもフランスを見せてあげたい…。定番のモン・サン・ミッシェルをはじめ、幾何学模様の庭園が有名なヴィランドリー城、パリで芸術が感じられる新名所など、親子3世代で楽しめる旅程を組んだのだった。異国の見慣れない風景に無邪気にはしゃぐ孫娘を見ていると、かつての娘の姿と重なり、当時のことが懐かしくも微笑ましく思い出される。



FRIENDS

サラとミル

大学の同級生だったサラとミルは、お互い就職してもよく休みを合わせて二人で旅行に行く仲だ。最初にフランスに行きたいと言い出したのは、好奇心が旺盛でいろんな観光地の映える写真をSNSに載せるのが趣味のミルだった。オシャレ好きなサラは、パリに新しくオープンした百貨店サマリテヌが前から気になっていたのですぐにOKしたのだった。パリのテラスでカフェを楽しんだり、電車でルーアンに小旅行をしたりと、盛りだくさんのフランス旅行となった。



COUPLE

ハヤトとヒカリ

結婚して数年たつハヤトとヒカりは、それぞれ仕事も家事もしっかり頑張る今どきのカップル。いつも夫婦旅行は妻が旅行先を決めることが多いけれど、今回のフランス旅行は、珍しく夫が率先して計画してくれた。シュノンソー城の前にカヌーの上でロマンチックにピクニックをしたり、リングの木がたくさんあるペイ・ドージュでカルヴァドスを試飲したり。妻が好きそう、楽しんでくれそう、という場所やものをたくさん取り入れてくれたプランに、ヒカりは心も表情も緩んでいく。



05 ノルマンディー NORMANDIE

アニメに出てきたように、ノルマンディー地方はパリから列車で気軽にアクセスできるエリアです。多彩な表情を持つノルマンディーは、何度訪れてもその見どころが尽きることがありません。たとえばルーアン旧市街の魅力的な街並み、緑溢れる牧歌的な景色が広がるペイ・ドージュ、そしてモン・サン・ミッシェル湾を裸足で歩いてみるという、これまでにない体験では、手つかずの大自然が息づく海岸線に圧倒されることでしょう。アニメではこの地の特産物もしっかり紹介されています。カルヴァドスの蒸留所を見学し、土地に伝わる技や知恵に触れれば、忘れられない旅の思い出となるでしょう。

列車の旅



©MARIE-ANAÏS THIERRY



すべての道はノルマンディーに通ず……と言っても過言ではないほど、ノルマンディーの鉄道網は充実しておりパリから気軽に訪ねることができます。パリのサン・ラザール駅とモンパルナス駅からは、カン、オンフルール、ヴェルノン・ジヴェルニー、エトルタといったノルマンディーのさまざまな街をつなぐ列車が出ています。首府ルーアンへは、最新車両でわずか1時間半で到着です。

ルーアンの歴史地区

CENTRE VILLE HISTORIQUE DE ROUEN



ルーアン歴史地区の時計台 ©JFLANGE



列車でパリからわずか1時間のルーアン。「100の鐘のある街」とも呼ばれ、木組の家や石畳みの小道、大時計台、ゴシック様式の教会など、市内の名所旧跡を前にしたら感動せずにはいられません。画家のモネはノートルダム大聖堂に惹かれ、大聖堂の連作を制作しています。セーヌ河岸は歩行者専用で整備されているので、ぶらぶら歩きながらくつろぐのに最適です。

モン・サン・ミッシェル湾 BAIE DU MONT-SAINT-MICHEL



©CORALINE ET LÉO



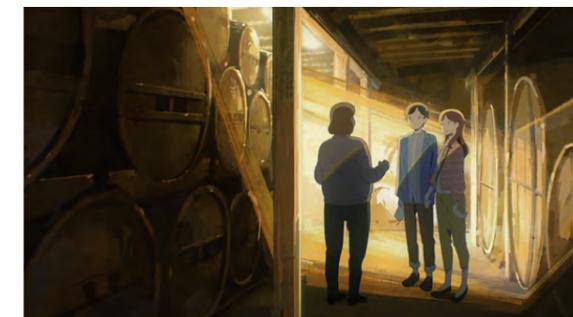
モン・サン＝ミッシェル湾はヨーロッパ大陸でもっとも干満差があることで知られており、2013年からは大潮にはモン・サン＝ミッシェルは完全な島となります。湾内は歩いて横断することもできます。湾内の動植物について知識を深めたり、モン・サン＝ミッシェルならではの眺めを楽しむことができ、忘れ難い滞在となるでしょう。

*湾内の徒歩横断には必ずガイドの同行が必要です。

ペイ・ドージュ PAYS D'AUGE



リンゴ園、木組みの館、牧場、そしてシードルやカルヴァドスの生産で知られるオージュ地方（ペイ・ドージュ）は、美しい風景で人々を和ませてくれます。美味しいレストランや蒸留所、シードル醸造所も多く、カルヴァドスやシードル、ポモーを味わうことができ、グルメにも嬉しい地方です。この地方はカマンベールやリヴァロ、ポン・レヴェックといったチーズの生産も有名です。ノルマンディー地方で原産地呼称保護ラベルを取得している4種類のチーズのうち、3種類がオージュで生産されているのです。



2022年の新着情報

HUITIÈME ÉDITION DE L'ARMADA À ROUEN 第8回アルマダ祭（ルーアン） 2023年6月8日～18日



ARMADA DE ROUEN 2019 ©EVA TESSIER

ルーアンで5年ごとに行なわれる帆船の祭典、アルマダ。ノルマンディー地方を訪れるなら一度は足を運ぶべき祭典が、いよいよ来年開催となります。世界の海から集まった帆船を主とする大型船がセーヌ川を遡り、ルーアンの河岸に10日間停泊します。期間中はさまざまな催しが行われ、ルーアンの街が活気に満ち溢れます。

www.armada.org

LES NUITS IMPRESSIONNISTES 印象派の夕べ 2022年8月26日～28日



MUSÉE DES BEAUX ARTS DE ROUEN
©MARIE-ANAIÏS THIERRY

2022年は、クロード・モネの絵画『印象・日の出』が描かれてから150年の節目にあたります。美術史に革命をもたらした絵画の制作150年を祝し、8月の週末、ノルマンディーの各地では30ほどの催しが行われます。ぜひこの機会に足をお運びください。現代アートや壮大な映像投影、提携する美術館での各種展覧会など、多種多様なプログラムが予定されています。印象派150周年を記念して2024年に開催されるノルマンディー印象派フェスティバルを見据え、充実した内容でお送りするイベントです。

ノルマンディー豆知識



MUSÉE DES IMPRESSIONNISMES GIVERNY
©DANIELLE DUMAS

パリを中心とするイル・ド・フランス地方と並び、印象派の画家たちにとりわけ愛されたノルマンディー地方。それまでの美術史に革命をもたらした絵画運動である印象派の画家たちの魂は、今もなおこの地で脈々と息づいているのです。ノルマンディーをめぐる美術史をひもとく旅は、画家たちにインスピレーションを与えた幸せな瞬間を追体験する旅になることでしょう。アニメの作画も、印象派らしい様式美が際立った、繊細で色彩豊かな絵画風になっています。



OUVERTURE DE LA LIEUTENANCE À HONFLEUR リュートナンス（オンフルール）のオープン 2023年春開館



©OLIVIER LEGRAND

オンフルールに現存するもっとも古い建造物のひとつであるリュートナンス。中世に歴史を遡る城塞は「カンの門」の別称でも知られ、かつてはここを通らねば街に入ることができませんでした。1684年からフランス革命のあった1789年までは、王に代わってこの地を治めていた総督の住まいとして使われていたため、それにちなんでリュートナンス（総督邸）と呼ばれるようになります。現在修復工事中の建物は、オンフルールの海事史に特化した博物館として、2023年に開館予定です。

ノルマンディー地方観光局から メッセージ



SABINE PANNIER サビーヌ・パニエ
欧州およびアジア担当

不確定な状況が2年も続いた後で、ふたたび日本の皆さまをお迎えできることを嬉しく思います。皆さまがノルマンディーの地を踏み、新たな発見（あるいは再発見）の旅を楽しまれることを心より願ってやみません。息を呑むような風景の数々、印象派にインスピレーションを与えた陽光のきらめき、ノルマンディーの文化遺産と自然遺産……。めまぐるしい気候変動の時代にあって、どうかノルマンディーにおいてになる皆さまには、一瞬一瞬を尊び、ゆったりとした時間の流れを感じていただけたらと思います。各地へ足を伸ばして見どころに触れ、急ぎ足で通り過ぎることなくノルマンディーを旅してください。ゆっくりと時間をかけ、ノルマンディーの味覚を堪能し、この地に暮らす人々と出会い、唯一無二の体験をされますように。自由を謳歌する地、真髓が息づく地、分かち合いの心に溢れる地であるノルマンディーで、皆さまとお目にかかれることを心待ちにしています。

プレスお問合せ：
サビーヌ・パニエ Sabine PANNIER
ヨーロッパ・アジア担当 Marchés Europe et Asie
s.pannier@normandie-tourisme.fr

<https://en.normandie-tourisme.fr/>

NORMANDY

06 ロワール渓谷 VAL DE LOIRE

ロワール渓谷を旅するなら、どうぞ古城や庭園、葡萄畑をお見逃しなく。アニメ内ではこの地を代表するスポットとして、とりわけ魅力的な3つの城をご紹介します。シュノンソー城のアーチ橋をカヌーでくぐる水上ピクニック、自転車めぐるロワール散策など、お馴染みの徒歩による見学ツアーとはひと味違う、オリジナリティ溢れるアクティビティに注目です。

ロワール河サイクリング 「ロワール・ア・ヴェロ」 LA LOIRE À VÉLO



ロワール渓谷の景観はこの地の文化であり、何にも代え難いものです。その景観を損なうことなく最大限楽しむには、環境負荷の少ない自転車で、サイクリングルート「ロワール・ア・ヴェロ (Loire à Vélo)」を辿るのが一番！道標に従ってロワールならではの景色を走り抜ける、老若男女を問わず楽しめるサイクリングルートです。景観保全の取り組みにより大切に守られてきたロワールの大地を、一日、週末、あるいは数週間をかけて散策していただければ、きっとかけがえのない発見があることでしょう。古城や豊かな動植物が織りなす景色を愛しつつ、河沿いのレストラン（ガングット）で小休止や美食に舌鼓を打ちながらの自転車の旅が楽しめます。ロワール・ア・ヴェロのすべてのルートでレンタサイクルと荷物の運搬サービスが提供されています。また、列車に自転車運搬スペースが設けられるなど、650の専門業者が自転車で旅を楽しむ皆さまを充実のサービスでお迎えする「Accueil Vélo (アークユ・ア・ヴェロ)」活動を支援しています。

www.loirebybike.co.uk/



©DAVID DARRAULT



©JOËL DAMASE

アンボワーズ城 CHÂTEAU D'AMBOISE



©MAX COQUARD; BESTJOBERS



ロワール川を一望する岬の上に建つアンボワーズ城は、いにしえからその水面を見守ってきました。ルネサンス黎明期には王の居城となり、遠征先のイタリアでその文化と芸術に魅せられたシャルル8世によって改装されると、イタリアから様式を取り入れたロワール渓谷で最初の城となります。その偉業は2代後のフランソワ1世にも引き継がれ、トスカナの天才レオナルド・ダ・ヴィンチを城に招き、共に豊かな文化や芸術をフランスに根付かせていきました。アンボワーズ城の礼拝堂にはダ・ヴィンチの墓があります。

シュノンソー城 CHATEAU DE CHENONCEAU



©DAVID DARRAULT



ルネサンス期の傑作であるシュノンソー城は、ファサードの白さと砲塔が織りなす官能的な曲線が目を引きまします。シュノンソー城のアーチの下をカヌーでくぐるという体験は、世界でも珍しく、あなたの記憶にいつまでも残る魔法の時間となることでしょう。さらにカヌーの後で、滋味あふれる郷土料理を満喫すれば、完璧な夢の一日となるでしょう。

ヴィランドリー城と庭園 CHÂTEAU DE VILLANDRY ET SES JARDINS



©G. GIRARD/CRT CENTRE VAL DE LOIRE



ヴィランドリー城の庭園は、フランス式庭園を象徴する存在です。庭園を見学すれば、農業や化学肥料を一切使わず、心を込めて丹念に手入れをする庭師たちに遭遇することでしょう。城のテラスからは、幾何学模様が象徴的な幾つもの庭園を一望することができます。

2022年新着情報

ジアン（Gien）のファイアンスで知るテーブルアート L'ART DE RECEVOIR AVEC LA FAÏENCE DE GIEN

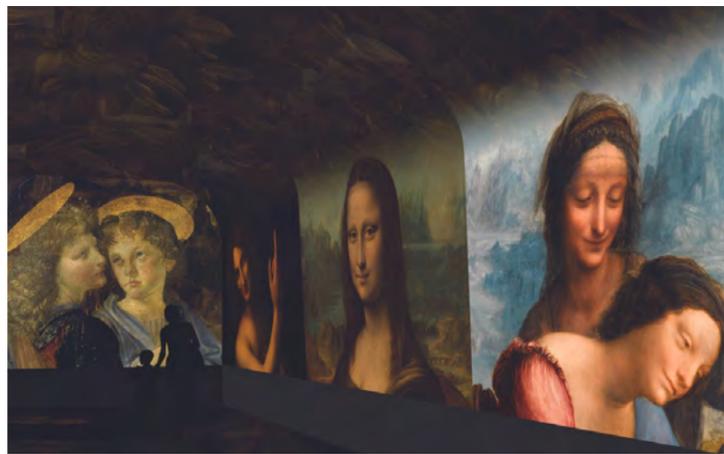


©ROMAIN BEAUMONT

ジアン（Gien）のファイアンス焼きといえば、格式ある宴の席を華やかに彩るテーブルウェアとしてお馴染みの陶器。一方、その歴史や製造法は必ずしも知られていないとは限りません。そんなジアンの町にファイアンス焼きの工房が開かれて200年。それを記念してジアン陶器博物館 *le musée de la Faïencerie* が全面改装され、モダンな姿に生まれ変わりました。卓越した作品を通してジアン工房の歴史を辿り、人々の食生活の進化がテーブルウェアにどれほど大きな影響を与えたのかを知ることができます。

www.gien.com

レオナルド・ダ・ヴィンチに捧ぐ新たな展示スペース UN NOUVEL ESPACE D'EXPOSITION DÉDIÉ À LÉONARD DE VINCI



©CLOS-LUCE-ARC-EN-SCENE-DROLE-DE-TRAME

レオナルド・ダ・ヴィンチが晩年を過ごしたクロ・リュセ城に、「画家&建築家、レオナルド・ダ・ヴィンチ」と銘打たれた500㎡の展示スペースが新たに設けられました。イタリアが生んだ天才ダ・ヴィンチによる数学、都市計画、建築の研究に焦点を当てた展示は、テレビゲーム、立体映像、模型などによって楽しみながら学ぶことができます。同展示スペースの1階では、《モナリザ》《白貂を抱く貴婦人》といったダ・ヴィンチの名画や下絵の詳細を壁いっぱいに映し出すプロジェクションマッピングによって、イマーシブな体験をしていただくことができます。

<https://vinci-closluce.com/en/>

新たな宿泊施設

2022年6月、2年連続で星を獲得したシェフ、クリストフ・エイ（Christophe Hay）がブロワBloisに5つ星ホテル「フルール・ド・ロワール（Fleur de Loire）」をオープンしました。ロワール川のほとりに建つホテルは、川と街を望む11室のスイートを含む44の客室のほか、レストラン、ビストロ、ペストリーショップ、プール、そしてシスレー（Sisley）のスパを備えています。シェフの価値観である「品質」「地産地消」「創造性」を実現するプロジェクトです。



©FLEUR DE LOIRE

www.fleurdeloire.com



ショーモン・シュル・ロワール城国際庭園 フェスティバル30周年

LES 30 ANS DU FESTIVAL INTERNATIONAL DES JARDINS DU DOMAINE DE CHAUMONT-SUR-LOIRE



©I. SCIPION - CRT CENTRE-VAL DE LOIRE



©ERIC SANDER

ショーモン・シュル・ロワール城で第1回国際庭園フェスティバルが開催されたのは1992年のこと。現代美術とランドスケープを融合した創作の実験的な試みとなりました。2022年、第30回を迎えたフェスティバルは、よりいっそう斬新で華やかに、これまで以上に大胆な作品と独創的な素材が庭園を彩っています。フェスティバルにあわせて、39室のスイートルーム、50席のレストラン、展示エリアを備えた魅力的なホテルもオープンしました。スイートルームには外に向かって開いたモジュール式のアルコーブが設けられ、自然や植物とのつながりを感じられる造りになっています。

www.domaine-chaumont.fr

www.leboisdeschambres.fr



ESTELLE VANDENBROUCQUE
エステル・ヴァンデンブルック
プレス担当

サントル・ヴァル・ドゥ・ロワール地方観光局 からのメッセージ

2022年から再び、日本から観光においでになる皆さまをお迎えできることを喜ばしく思います。アニメでご覧いただいたヴィランドリー城、シュノンソー城、アンボワーズ城のほかにも、ロワール渓谷にはぜひともご覧いただきたい城が多数あります。30周年を迎えたショーモン・シュル・ロワール城国際庭園フェスティバル、クロ・リュセ城のレオナルド・ダ・ヴィンチに捧げた新展示スペース、シュヴェルニー城の一般公開100周年記念など、ぜひとも体験していただきたい催しも多数あります。ロワールへおいでになれば、春から冬まで一年中、昼夜を問わずいつでも、城や街の新たな魅力を発見していただけることでしょうか。とりわけクリスマスの時期には、一年のハイライトにふさわしく、どの城もとびきり美しく装飾された姿をご覧いただけます。また、洞窟に設けられたワインカーブを見学したり、葡萄畑でのピクニックや料理教室に参加したり、星付きシェフの料理を味わったりと、食にまつわる体験も存分にお楽しみいただけます。

プレスお問合せ：
エステル・ヴァンデンブルック
Estelle VANDENBROUCQUE
プレス担当 Chargée de relations presse
e.vandembroucq@centre-valdeloire.org

www.loirevalley-france.co.uk



07 パリ PARIS

パリを語らずしてフランスを語ることはできません。アニメでは、チュイルリー公園やモントルグイユ通りの賑わい、エッフェル塔からの素晴らしい夜景といったパリを象徴する場所だけでなく、知る人ぞ知る新しい魅力やアクティビティをご紹介します。現代美術の新たな指標となるピノー・コレクションを収めたブルス・ド・コメルス、首都の緑豊かな界隈であり若者たちの活気で溢れるヴィレット公園、その傍らに建つ建築の至宝、フィルハーモニー・ド・パリを取り上げています。グラスを傾げるにも、散歩をするにもぴったりのセーヌの河岸など、ナイトライフについてもおまかせください。

チュイルリー公園 JARDIN DES TUILERIES



© PARIS TOURIST OFFICE ; SARAH SERGENT



元々はフランス王室の所有であった見事なフランス式の庭園で、セーヌ川に沿った形で広がり、ルーブル美術館、オランジュリー美術館に接しています。マロニエの並木が有名。園内には2つの泉水や迷路のほか、多くの彫像が点在しており、文化の香り高いパリにおいて絶好のリラックスポイントとなっています。

ヴィレット公園とフィルハーモニー・ド・パリ PARC DE LA VILLETTE ET PHILHARMONIE DE PARIS



©MARCO BORGGREVE



パリの東部に点在する見どころを自転車で回るとするのは、最高のアイデア。カンパーニュ・ア・パリも、ウルク運河も、バーのある遊覧船も訪ねることができます。ヴィレット公園での休憩もおすすめ。子供たちが遊べる広大なフィールドもあり、心からくつろげる場所です。ヴィレット公園内のフィルハーモニー・ド・パリは、パリ市内で音楽を楽しむ新名所として登場しました。無数の鳥が羽ばたくイメージのメタリックな外壁など、現代的で斬新な建築が注目されています。しかし、より印象的なのは大ホールでしょう。音響効果が素晴らしく、このホールで聴く交響曲コンサートは忘れ難いものとなるはず。

モントルグイユ通り RUE MONTORGUEIL



©ALEXANDER SPATARI



歩行者天国となっている石畳の細い通りで、青果店、花屋、バー、レストランなどが連なり、パリ最古のパン屋さんもあります。美味しいものに会え、庶民に人気のあったこの通りは独特な魅力を持ち、画家のダリや作家のマルセル・ブルーストが好んでランチを取ったというのも納得されます。

ブルス・ド・コメルス BOURSE DE COMMERCE



© TADA0 ANDO ARCHITECT & ASSOCIATES, NINEY ET MARCA ARCHITECTES, AGENCE PIERRE-ANTOINE GATIER / PHOTO MAXIME TETARD, STUDIO LES GRAPHIQUANTS, PARIS



新しい現代美術館、ブルス・ド・コメルス・ピノー・コレクションが誕生しました。商品取引所であった歴史ある建物が見事に復元され、絵画、彫刻、写真、ビデオ、パフォーマンス、インスタレーションなどを鑑賞することができます。パリの中心地において、あらゆるジャンルの美術を堪能できる場所です。

セーヌ河岸 QUAIS DE SEINE



©PARIS TOURIST OFFICE ; AMÉLIE DUPONT



パリジャンのようにパリを楽しみたかったら、セーヌの河岸に行きましょう。パリの主だったモニュメントもセーヌ河岸からは徒歩圏内。パリを象徴するセーヌ河沿いは無数にあるバーやレストラン、ダンスバーなどで活気に溢れ、1日のうちいつ訪れても心地よい時間を過ごすことができます。中でもセーヌの左岸に係留するロザ・ボヌールはダンスホールを兼ねた遊覧船です。賑やかな雰囲気の中で、太陽の光が降り注ぐテラスで一杯飲んだり、簡単な食事をとったりすることができます。グランパレとアレクサンドル3世橋を眺めることができるのもポイント。

一味違うパリの楽しみ方

自転車でめぐるパリ PARIS À VÉLO



自転車に乗ってパリを散策！ 1,000kmを超えるサイクリングロードが整備されているパリには、レンタサイクルも多数あり、ガイドツアーも提供され、これら質の高い施設やサービスのおかげで自転車での観光を気軽にお楽しみいただけます。ひと味違った観光をするのにも、自分のペースでパリをめぐるのにも最適な自転車は、友人と共に、ひとりで、カップルで、あるいは家族と、晴天のパリで心地よいひとときを過ごし、あまり知られていない境界の知る人ぞ知る魅力を発見するのにつけの移動手段です。環境にもお財布にも優しいパリ散策となることでしょう。パリを首府とするイル・ド・フランス地方で整備されているサイクリングロードは6,000km以上に及びます。パリ周辺の自転車旅もぜひお楽しみください。

<https://ja.parisinfo.com/>パリ便利情報/交通機関/自転車で巡るパリ



©AMELIE LAURIN

パリのクラフト産業祭 パリ・ロカル PARIS LOCAL

ファッション、ホームウェア、アート、食……パリにはあらゆる分野のデザイナーやアーティストが大勢活躍しており、この町の多様性と豊かさを創り上げています。彼らが追い求める卓越性は、地産地消、ノウハウの共有と活用、短い流通経路の確立といった責任ある価値観と切り離せません。この「ローカルなパリ」の取り組みは、ノウハウのデモンストレーションやワークショップ、ガイドツアーへの参加、美味しい料理を味わうこと、あるいは、責任ある価値観の証である「Fabriqué à Paris (メイド・イン・パリ)」ラベルのついたお土産や贈り物を購入など、旅のさまざまな場面を通じて発見していただくことができます。2022年11月18日から20日には、パリのクラフト産業の認知を広げその価値を高めるため、パリとその周辺都市で「ParisLocal (パリ・ロカル)」というイベントが開催されます。

<https://parislocal.parisjetaime.com/>



©STIEGLITZ

ナイトライフ VIE NOCTURNE



©PARIS TOURIST OFFICE
© SARAH SERGENT



©PARIS TOURIST OFFICE
PHOTOGRAPHE : MARC BERTRAND

パリのナイトライフはじつに多彩です。真昼のパリにうっとり酔いしれたあとは、夜のパリで胸躍るひとときを過ごしましょう。バーやクラブ、コンサートホールやキャバレー、コメディクラブ、深夜までオープンしている美術館、世界各国料理のレストラン。パリの街には、夜を楽しみたい人たちの望みを叶えるあらゆるムードとアクティビティがあり、とびきりの驚きを与えてくれます。ジャズ・ナイトからロック・フェスティバルまで、ルーフトップパーティからエレクトロ・アフターパーティまで、そのほかにも、パリとその周辺都市では年間を通じて多種多様なイベント（各種フェスティバル、ミュージアム・ナイト、ガイド付きナイトツアーなど）が催されています。忘れられないひと時をお過ごしください。

パリ観光・会議局からのメッセージ



CORINNE MENEGAUX
コリンヌ・メネゴー
パリ観光・会議局局長

パリ観光・会議局は、日本の皆さまにひと味違ったパリの楽しみ方をおすすめすべく、フランス観光開発機構と共にこのような独創的なキャンペーンを立ち上げられたことをたいへん嬉しく思っています。日本のアニメーションでお馴染みの表現手法を用い、パリのアール・ド・ヴィーヴル（生活美学）、ナイトライフ、セーヌ川、ソフトモビリティ（環境を優先した移動手段）、文化関連の最新情報などを取り上げ、いつもとはひと味違った視点から首都パリを動画でご紹介する機会となりました。このたびお目にかけてパリのアニメーションが、日本の皆さまにとってインスピレーションの源となり、ご期待に沿うものであれば幸いです。

プレスお問合せ：
イネス・ド・フェラン
Inès de Ferran
メディア担当責任者 Responsable Media
ideferran@parisinfo.com
+337 63 47 35 49

<https://ja.parisinfo.com>



08 サマリテーヌ LA SAMARITAINE

パリの中心、ルーブル美術館とノートルダム大聖堂の間に位置する百貨店サマリテーヌ (La Samaritaine) は、フランスのアル・ド・ヴィーヴルを最も象徴する場所のひとつです。歴史と文化的所産、ショッピングとグルメ、伝統とモダンが交差するラ・サマリテーヌは、パリの街並みのなかでひととき目を引き、訪れる人たちを驚かせ魅了しています。パリの旅は、どうぞサマリテーヌへおいでください。



ちょっと歴史を振り返って..... UN PETIT PEU D'HISTOIRE...

大規模な改修と改築を経て、2021年6月に再オープンしたサマリテーヌ。溶岩タイルに七宝焼を施したその壁面は、1世紀半以上を遡ることができる歴史を物語っています。冒険の始まりは1870年のこと。エルネスト・コニャック妻のマリ=ルイズ・ジェは、パリの中心に架かる橋、ポン・ヌフから数歩のところの小さな洋服店サマリテーヌを開きました。店はたちまち評判となり、何百人もの客が商品を求めて殺到するようになります。こうして伝説が生まれ、2022年の今日もなお、サマリテーヌはパリの一部としてその歴史を体現し続けているのです。

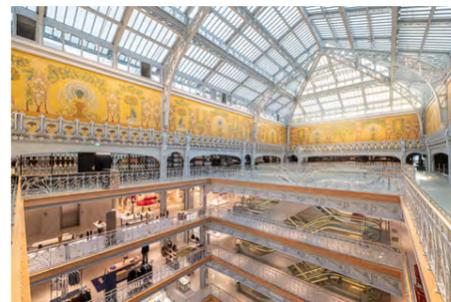
傑作建築

UN CHEF-D'ŒUVRE ARCHITECTURAL

LVMHグループは2001年にパリの老舗百貨店サマリテーヌを取得し、2005年に日本の建築事務所SANAAにその改修を依頼しました。SANAAが担当したのは、リヴォリ通り側の非常にモダンな新館と波打つガラスの外壁です。それは文化遺産と近代性の出会いであり、2つの建物の内部も同様です。ポン・ヌフ側のアル・ヌーヴォー様式の建物では伝説的な大階段に綿密な修復が施され、かつての豪華絢爛な佇まいを取り戻しました。エッフェル塔と並び称されても良いでしょう。ガラス張りの天井には環境に配慮したスマートガラスが採用されています。

さらに詳しく知るには？

好奇心旺盛な皆さまに喜んでいただくために、ラ・サマリテーヌではこの文化的所産のガイド付き見学ツアーを行なっています。



©WEARECONTENTS



理想的な立地

UNE LOCALISATION IDÉALE

首都の中心部という絶好のロケーションに位置する百貨店ラ・サマリテーヌ。その一角を占めるパラスホテル、シュヴァル・ブラン (Cheval Blanc) からは、ポン・ヌフを見下ろす絶景を望むことができます。ルイ・ヴィトン (LVMHグループ) 本社の向かいに建つラ・サマリテーヌは、ルーブル美術館、ポン・ヌフ、ポン・デザール、ノートルダム大聖堂、賑やかなレ・アル地区、オルセー美術館、サン・ジェルマン・デ・プレのボヘミアン地区など、光の都パリを象徴するスポットから数分の場所にあります。サマリテーヌに立ち寄りずして、歴史ある街パリを満喫することなどできません。



パリならではのショッピングを楽しむ

UNE OFFRE SHOPPING UNIQUE À PARIS !

150年前の創業以来、サマリテーヌは、ショッピングとフランスのアル・ド・ヴィーヴルの殿堂として、常にその原点に立ち返り続けています。DFSグループがハイブリッドモデルとして設計した百貨店は、国際的なブランド専用のスペースと、シーズンごとに驚きの品揃えでお客さまをお迎えするマルチブランドのスペースの両方を確保しています。

ディオール (Dior)、グッチ (Gucci)、セリーヌ (Celine)、ルイ・ヴィトン (Louis Vuitton) といった名だたる名門ブランドから、新進気鋭のデザイナーや今最も旬なクリエイターまで、ファッションとアクセサリーのマストアイテムから知られざるブランドまで、じつに多彩な、最先端のミックス&マッチを楽しめる選りすぐりのブランドが各フロアを占めています。ルージュ (Rouje) からマルニ (Marni)、ガニー (Ganni)、ナヌーシュカ (Nanushka)、クロエ (Chloé)、サンドロ (Sandro)、アライア (Alaïa) まで、ラ・サマリテーヌを訪れたら、ゴージャスなバッグにも、流行のドレスにも、最新の限定スニーカーにも心をときめかせずにはいられないでしょう。

1階の「シュシュ・ドウ・ラ・セゾン (Chouchous de la saison)」では、シーズンごとにさまざまなブランドをセレクトし、それぞれのブランドの代表的なアイテムをお手頃な価格でご紹介しています。

時計と宝飾品に特化したフロアである3階には、ブランパン (Blancpain) やヴァシュロン・コンスタンタン (Vacheron Constantin)、ティファニー (Tiffany) やショーメ (Chaumet) のブティック、そして、ファインジュエリー界を席巻する新進ブランドのコレクションを取り揃えています。



©MATTHIEU SALVAING



SANAAが設計を手がけたリヴォリ館は、内部は無機質でインダストリアルな内装となっており、訪れる人にとって遊園地のようなイメージの本格的なコンセプトストアとなっています。Sunnei、J.W. Anderson、3.PARADIS、Ahluwalia、BLACK COMME DES GARÇONSをはじめ、ファッションシーンでもっとも購買欲を刺激するブランドのコレクションがフランスでも類を見ない設計コンセプトの建物内に並び、ファッション好きにはたまらないでしょう。ショッピングをしながらアートや文化にも触れることができることは、常に新しい体験を求めるアーバンファッション愛好家を喜ばせてくれます。



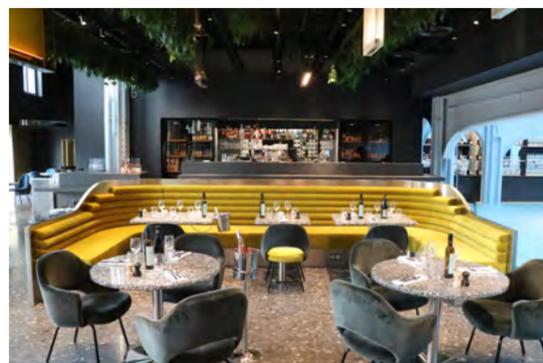
© WE ARE CONTENT

ラ・サマリテーヌでオリジナリティ溢れる掘り出し物を見つけないなら、どうぞボン・ヌフを望むルルー(Loulou)へおいでください。おしゃれで陽気なルルーは、ラ・サマリテーヌのコンセプトショップ。ファッション、ハイテク、デザイン、文房具など、フランスのエスプリが効いた素敵なお土産を探すならここがおすすめです！

美食のメッカ

UN HAUT-LIEU DE LA GASTRONOMIE

サマリテーヌでは、どんなグルメの方でもご満足いただけるようさまざまな努力を怠りません。旅行者ならフランス料理の真髄に触れることができるでしょう。ボン・ヌフ館、リヴォリ館に合わせて9軒のレストランがあり、サマリテーヌではあらゆる料理を楽しむことができます。フランスらしい朝食を楽しむならば、歴史あるガラス屋根の下のレストラン「ヴォヤージュ・サマリテーヌ (Voyage Samaritaine)」のテーブルへどうぞ。ジャン=ミシェル・ウィルモット建築研究所が設計を手がけた宝石箱のようなレストランは、パリらしい小粋なムードを湛えています。ミシュランの2つ星シェフであるマチュー・ヴィアネ (Mathieu Viannay) とヴォヤージュのエグゼクティブシェフであるジミー・エリザベート (Jimmy Elisabeth) が正確さと創造性をもって再解釈した伝統的なフランス料理は、クラシカルな傑作として美食家たちを魅了しています。仔羊の肩肉のプレッセにボム口産サーモンのグリル。ベルローブ牧場のハンバーガーはこのためだけに足を運ぶ価値のある逸品です。



©SAMARITAINE PARIS PONT-NEUF



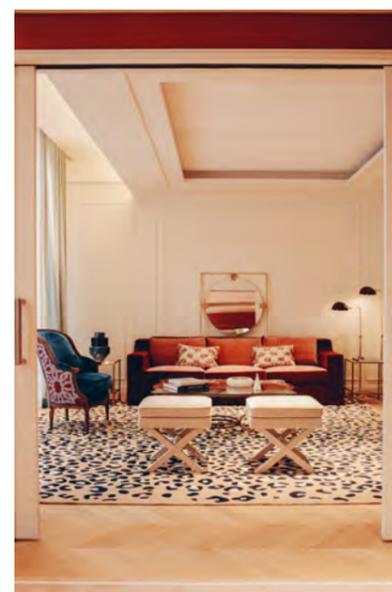
©MATTHIEU SALVAING

ティータイムには、ダロワイヨ (Dalloyau) のシェフ・パティシエ、ジェレミー・デル・ヴァル (Jeremy Del Val) がつくるスイーツをおすすめします。きっとスイーツを愛する誰もが賛同するはずで、パティスリーのディネット (Dinette) や「エクスクルーシブ・バイ・ダロワイヨ (Exclusive by Dalloyau)」のケーキやコンフィズリー、マカロンもお見逃しなく！ 紅茶やシャンパンと一緒に召し上がりください。サマリテーヌの装飾からインスピレーションを得たパティスリー、フルール (Fleur) があるのはここだけです。

フランスらしい朝食として、一日の始まりにエルネスト (Ernest) のベーカリーでエリック・カイザー (Eric Kayser) のベストリーを食べたら、つづいてザンク (Zinc) へ向かいましょう。1957年からパリで自家焙煎の店を営む、かのブリュレリー・デ・ゴブラン (Brûlerie des Gobelins) の豆で淹れたコーヒーを飲むことができます。ランチは、ヘルシーで美味しいランチが楽しめる「スルス・バイ・ジョア (Source by Joie)」のおしゃれなカウンターへ。2階のレストラン、エルネストでは、星付きシェフのナオエル・デノー (Naoëlle d'Hainaut) が考案した、コンテンポラリーで独創的な料理が味わえます。

多彩なVIPサービス

UNE MULTITUDE DE SERVICES VIP



©MATTHIEU SALVAING

お客さまお一人おひとりに忘れられない時間をお過ごしいただくため、ラ・サマリテーヌでは各種サービスやスペシャルな体験をご用意しています。「**アパルトマン (Appartement)**」と名づけられたVIPラウンジのパーソナルショッピング、コンシェルジュサービス。また、エスパス・ボーテ・ドゥ・ラ・サマリテーヌ (espace de beauté de la Samaritaine) 内にあるヨーロッパ最大級のスパ、サンク・モンド (Cinq Mondes) もご利用いただけます。百貨店の1階、新進気鋭ブランドや独占店のブランドが揃う「ボーテ・ピュール (Beauté Pur)」のエリアには、グリーンビューティーの最も魅力的なコスメブランドが並び、エコナチュラルなネイルカラーのスペシャリスト、キュア・バザール (Kure Bazaar) が手がけるヘア、ペディキュア、マニキュアのビューティスタジオがあります。サマリテーヌは、日本のお客さまにご満足いただけるように常に想像力を豊かに膨らませ、皆さまのお越しをお待ちしています。

9, rue de la Monnaie Paris 1er
Tel : +33 1 88 88 60 00
月曜～日曜
10h-20h
プレスお問合せ : renaud.francois@dfs.com

www.dfs.com/en/samaritaine

SAMARITAINE
PARIS PONT-NEUF

DFS

パートナー各位のご参加に
心よりお礼申し上げます。

NORMANDY

COMITÉ RÉGIONAL DE TOURISME DE
NORMANDIE

ノルマンディー地方観光局



COMITÉ RÉGIONAL DE TOURISME DE
CENTRE-VAL DE LOIRE

サントル・ヴァル・ド・ロワール地方観光局

SAMARITAINE
PARIS PONT-NEUF

DFS

LA SAMARITAINE DFS

サマリテーヌ DFS



OFFICE DU TOURISME ET
DES CONGRÈS DE PARIS

パリ観光・会議局



H.I.S. CO.,LTD.

株式会社エイチ・アイ・エス



AIR FRANCE

エールフランス航空

Atout France au Japon

フランス観光開発機構 広報部

〒106-8514 東京都港区南麻布4-11-44

Tél.: 03-5798-6297

presse.jp@atout-france.fr

jp.france.fr | jp.media.france.fr

Explore
France™

